



食事は空の旅の楽しみ

＝KLMの機内食

旅の同伴者

「オランダ・ベルギーの旅④」



添乗員が同行する海外ツアーの場合、出発二、三日前に添乗員から最終確認の電話がかかって来る。その時いつも質問するのは「今回のツアーは何人ですか」。募集広告に限定何人と明記してあれば別だが、当日までわからない。人数は旅にかなり影響する。

以前、総勢七十

人でバス三台に分乗して回るというツアーに参加したことがある。トイレ休憩の際、女性トイレは長蛇の列だった。前回の英国ツアーも三十八人と多かったが、一人旅だったので問題はあまりなかった。

しかし、妻と一緒にの場合、車椅子の手配など添乗員にお世話になることが多い。幸い、今回は十人。現地での移動のバスは大型で二つの座席を一人で使用できたので楽しい旅となった。

「参加者は十人です」と答えた添乗員の声が前回の添乗員の女性の声に似ていた。しかし旅行社が違うので、そのことには触れなかった。集合場所に行く、前回の添乗員だ。旅行社は人件費を抑えるため、直属の添乗員を減らし、フリーの添

乗員と契約するので今回のようなことが起こるらしい。利用する方は初対面より一緒に旅をした添乗員の方が気心もわかり何かと便利である。旅は同行する妻だけでなく、添乗員をはじめツアーの参加者も旅の同伴者。知り合いの添乗員の上、参加者も少ない好条件の旅となる。

添乗の仕事は一カ月に二度ぐらい海外を旅できるのでうらやましいと思う人も多いだろう。語学力も必要な専門職ではあるが、観察しているとか今回の重労働である。今回は「ビジネスクラスで行く旅」だから参加者全員ビジネス席。しかし添乗員はエコノミー席。「ビジネスの食事はいかがでしたか」と聞かれ、何か申し訳ない気になる。ビジネスの特別メニュー

は洋食一、和食二の三種類から選ぶことができ、朝食も寝る前にカードが配布され、パンやヨーグルト、ジャムなども選べる。福岡からアムステルダム・スキポール空港までの十一時間四十五分は二回の食事と映画を見ているとそんなに長いとも感じない。

横道にそれたが、添乗員は大切な旅の同伴者。この人と気が合うかどうかも旅の一つのポイント。そして他のツアー参加者も。「奥様が体が不自由なのによく二人で旅をされますね。私たちも見

ならいます」と皆さんから気を使ってもらう。妻とのツーショットの写真を送ってくれた人もいます。ツーショットは自分では撮れない。来年の年賀状はオランダの風車を背景に旅の同伴者が撮ってくれたものにする予定だ。

運河クルーズ＝旅の同伴者から送られてきた写真

